

有効成分ジクロロメゾチアズを含有する申請農薬の使用方法及び
薬効・薬害試験結果概要

1. フィールドマストフロアブル（ジクロロメゾチアズ 18.4 %水和剤）

（1）使用方法

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	ジクロロメ ゾチアズを 含む農薬の 総使用回数
結球あぶ らな科葉 菜類(キャ ベツを除く)	アオムシ コナガ ヨトウムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ	4000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで 但 し、メキ ャベツに あつては 本葉切り 落とし開 始の前日 まで	2 回 以内	散布	2 回 以内
キャベツ	アオムシ コナガ ヨトウムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ ウリバ類			収穫前日 まで			
だいこん	アオムシ コナガ ヨトウムシ キスジノミハムシ ハイマダラノメイガ カブラハバチ			収穫 3 日 前まで			
はなやさい類	アオムシ コナガ ヨトウムシ ハスモンヨトウ ハイマダラノメイガ						
非結球あ ぶらな科 葉菜類(こ まつなを 除く)	アオムシ コナガ ヨトウムシ ハスモンヨトウ キスジノミハムシ			収穫前日 まで			
こまつな	アオムシ コナガ ヨトウムシ ハスモンヨトウ キスジノミハムシ ナメグサリハエ						
レタス類	ハスモンヨトウ ヨトウムシ ナメグサリハエ						
かぶ	アオムシ コナガ ヨトウムシ キスジノミハムシ ハイマダラノメイガ カブラハバチ						

(2) 薬効

① 結球あぶらな科葉菜類

薬効・薬害試験の結果、アオムシ、コナガ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ及びハイマダラノメイガに対して無処理区と比べて効果が認められた。

結球あぶらな科葉菜類のアオムシ、コナガ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ及びハイマダラノメイガに対する効果については、キャベツ及びはくさいの試験で評価した。

表 1-1 : フィールドマストフロアブルの薬効・薬害試験（結球あぶらな科葉菜類、アオムシ）結果概要

作物名	実施場所	対象病虫害		試験条件			結果	
	実施年度	病虫害名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
キャベツ	青森 H27	アオムシ	中	4000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	岩手 H27		中		本葉 8 枚展開		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	福井 H27		中 (放虫)		生育期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	青森 H29		多		生育期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	岡山 H29		中		本葉 8 枚展開		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	神奈川 H29		中		14～15 葉展開		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	京都 H30		少→中 (放虫)		本葉 10～12 枚		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	岡山 H30		多		結球期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
はくさい	岩手 H27		少 (放虫)		本葉 13～14 枚展開		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	青森 H29		中 (放虫)		生育期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-2 : フィールドマストフロアブルの薬効・薬害試験（結球あぶらな科葉菜類、コナガ）
結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		病害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
キャベツ	群馬 H27	コナガ	少	4000 0.005	本葉 6 葉期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	山梨 H27		中		本葉 12～14 葉期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	長野 H27		多		生育期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	京都 H27		多 (放虫)		10～12 葉 (最大葉長: 約 25cm)		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	山梨 H29		中→多		本葉 8～12 葉		無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	長野 H29		多		本葉 5 枚程度		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	高知 H29		多		草丈約 35cm		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	宮崎 H29		少		株径約 30cm、本葉 8 枚展開期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
はくさい	青森 H27	コナガ	多	4000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	岩手 H27		少		結球初期 (直径約 30cm)		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-3 : フィールドマストフロアブルフロアブルの薬効・薬害試験（結球あぶらな科葉菜類、ヨトウムシ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病虫害		試験条件			結果	
		病虫害名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
キャベツ	青森 H27	ヨトウムシ	多 (放虫)	4000 0.005	本葉 8 葉期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	山梨 H27		中→少 (放虫)		結球開始期		無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	京都 H27		多 (放虫)		本葉 10 葉期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	奈良 H27		中 (放虫)		結球期		無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	福井 H29		多発生 (放虫)		生育期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	京都 H29		少発生 (放虫)		結球初期 (直径約 30cm)		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	奈良 H29		甚発生 (放虫)		本葉 8 葉期		無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	石川 H30		中発生 (放虫)		結球開始期		無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	奈良 H30		中発生 (放虫)		本葉 10 葉期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
はくさい	岡山 H30		多発生		結球期		無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	青森 H27	ヨトウムシ	多 (放虫)	4000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	茨城 H27		多 (放虫)		本葉 8～9 枚・株径 30cm		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	青森 H29		多 (放虫)		生育期		無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
	茨城 H30		多 (放虫)		本葉 7～8 枚		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	宮崎 H30		少 (放虫)		結球期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-4 : フィールドマストフロアブルの薬効・薬害試験（結球あぶらな科葉菜類、ハスモンヨトウ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病虫害		試験条件			結果	
		病虫害名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
キャベツ	山梨 H27	ハスモンヨトウ	中 (放虫)	4000 0.005	本葉 14～ 16 葉期	散布	無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	薬害は認めら れなかった。
	愛知 H27		中 (放虫)		本葉 14 枚・草丈 25cm 程度		無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	薬害は認めら れなかった。
	京都 H27		多 (放虫)		結球始め		無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	薬害は認めら れなかった。
	兵庫 H27		中 (放虫)		生育期		無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	薬害は認めら れなかった。
	茨城 H29		多 (放虫)		結球初期		無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	薬害は認めら れなかった。
	宮崎 H29		中→少 (放虫)		生育盛期 (本葉約 11 枚展開)		無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	薬害は認めら れなかった。
はくさい	茨城 H27		少 (放虫)		8 葉期・ 株径 25cm		無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	薬害は認めら れなかった。
	石川 H27		多 (放虫)		結球期		無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	薬害は認めら れなかった。
	和歌山 H27		多 (放虫)		本葉 4 枚 期		無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	薬害は認めら れなかった。
	岡山 H27		中		本葉 10～ 12 葉期		無処理区と比較 して効果が認め られたが、その 程度は低かつ た。	薬害は認めら れなかった。

表 1-5 : フィールドマストフロアブルの薬効・薬害試験（結球あぶらな科葉菜類、ハイマダラノメイガ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		病害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
キャベツ	愛知 H27	ハイマダラノメイガ	中	2000 0.009	本葉 15～ 16 枚期、 根部肥大 期	散布	無処理区と比 較して十分な 効果が認めら れた。	薬害は認められ なかった。
	大阪 H27		少	4000 0.005	本葉 15～ 16 枚期、 根部肥大 期		無処理区と比 較して十分な 効果が認めら れた。	薬害は認められ なかった。
	岡山 H27		少	6000 0.003	本葉 15～ 16 枚期、 根部肥大 期		無処理区と比 較して十分な 効果が認めら れた。	薬害は認められ なかった。
	神奈川 H29		少	4000 0.005	14～15 葉 展開		無処理区と比 較して十分な 効果が認めら れた。	薬害は認められ なかった。
	愛知 H29		甚		生育初期		無処理区と比 較して十分な 効果が認めら れた。	薬害は認められ なかった。
	宮崎 H29		多		本葉 5,6 枚展開		無処理区と比 較して十分な 効果が認めら れた。	薬害は認められ なかった。
はくさい	愛知 H27		少	4000 0.005	生育初期		無処理区と比 較して十分な 効果が認めら れた。	薬害は認められ なかった。
	和歌山 H27		中		生育初 期・本葉 4 枚		無処理区と比 較して十分な 効果が認めら れた。	薬害は認められ なかった。
	岡山 H27		少		本葉 10～ 11 葉展開		無処理区と比 較して十分な 効果が認めら れた。	薬害は認められ なかった。
	宮崎 H27		中		本葉 7 枚 程度		無処理区と比 較して十分な 効果が認めら れた。	薬害は認められ なかった。

② キャベツ

薬効・薬害試験の結果、ウワバ類に対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-6 : フィールドマストフロアブルの薬効・薬害試験（キャベツ、ウワバ類）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病虫害		試験条件			結果	
		病虫害名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
キャベツ	岩手 H27	タナギンウワバ	中	4000 0.005	結球初期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	岡山 H27		中		結球期		無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	山梨 H30		多		本葉 14 枚程度		無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
	愛知 H30		中		本葉 9～10 枚期		無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	岡山 H30		少		結球期		無処理区と比較して効果が認められなかった。	薬害は認められなかった。
	千葉 H27	イラクサギンウワバ	少 (放虫)		生育期		無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	宮崎 H29		少		結球期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	兵庫 H29		中		本葉 14 枚期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

③ だいこん

薬効・薬害試験の結果、アオムシ、コナガ、ヨトウムシ、キスジノミハムシ、ハイマダラノメイガ及びカブラハバチに対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-7 : フィールドマストフロアブルの薬効・薬害試験（だいこん、アオムシ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		病害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
だいこん	青森 H27	アオムシ	少	4000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	石川 H27		少 (放虫)		生育期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-8 : フィールドマストフロアブルの薬効・薬害試験（だいこん、コナガ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		病害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
だいこん	青森 H27	コナガ	多	4000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	石川 H27		少		生育期		無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	福井 H27		少 (放虫)		生育期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-9 : フィールドマストフロアブルの薬効・薬害試験（だいこん、ヨトウムシ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		病害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
だいこん	青森 H27	ヨトウムシ	多 (放虫)	4000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
	岩手 H27		少 (放虫)		本薬 12 ～13 枚 展開		無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	茨城 H27		多→少 (放虫)		本薬 14 ～15 枚、根部 肥大期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-10 : フィールドマストフロアブルの薬効・薬害試験 (だいこん、キスジノミハムシ)
結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		病害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
だいこん	青森 H27	キスジノミハムシ	多	4000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
だいこん	茨城 H27	キスジノミハムシ	少		本葉 1～2 枚期、 5 枚期(茎葉伸長期)	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいこん	岡山 H27	キスジノミハムシ	甚		本葉 5 葉展開・本葉 10～11 葉展開	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいこん	岩手 H29	キスジノミハムシ	多		1 葉期・4 葉期・7 葉期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいこん	茨城 H29	キスジノミハムシ	少		生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいこん	新潟 H29	キスジノミハムシ	多		生育前期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
だいこん	岡山 H30	キスジノミハムシ	多		本葉 5.5 葉展開・根部肥大期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
だいこん	高知 H30	キスジノミハムシ	少→多		草丈 5cm・10cm	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-11 : フィールドマストフロアブルの薬効・薬害試験（だいこん、ハイマダラノメイガ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		病害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
だいこん	神奈川 H27	ハイマダラノメイガ	少	4000 0.005	本薬 5 枚・8 枚	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	奈良 H27		多		本薬約 2 葉期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	和歌山 H27		多		生育初期 (本薬約 4 枚)		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	高知 H27		少		草丈 20cm		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-12 : フィールドマストフロアブルの薬効・薬害試験（だいこん、カブラハバチ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		病害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
だいこん	新潟 H27	カブラハバチ	多	4000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	石川 H27		多		根部肥大期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	福井 H27		中		本薬 8 葉期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	茨城 H27		多→甚		本薬 15 ～16 枚期、根部肥大期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

④ はなやさい類

薬効・薬害試験の結果、アオムシ、コナガ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ及びハイマダラノメイガに対して無処理区と比べて効果が認められた。

はなやさい類のアオムシ、コナガ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ及びハイマダラノメイガに対する効果については、ブロッコリーの試験で評価した。

表 1-13 : フィールドマストフロアブルの薬効・薬害試験（はなやさい類、アオムシ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		病害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
ブロッコリー	青森 H27	アオムシ	中	4000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	岩手 H27		中		本葉展開 6 枚		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	茨城 H27		甚→多		草丈 40cm 前後、茎葉伸長期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	岡山 H27		多		着蕾期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	宮崎 H27		多		本葉 12 枚		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	奈良 R2		甚		本葉 8 枚		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-14 : フィールドマストフロアブルの薬効・薬害試験（はなやさい類、コナガ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		病害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
ブロッコリー	青森 H27	コナガ	多	4000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	岩手 H27		少		9～10 葉期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	茨城 H27		中		草丈 40cm 前後、茎葉伸長期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		病害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
ブロッコリー	鳥取 H27	ヨトウムシ	多	4000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	宮崎 H27		中		本葉 12 枚		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	茨城 R2		中→多		生育中期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-15 : フィールドマストフロアブルの薬効・薬害試験（はなやさい類、ヨトウムシ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		病害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
ブロッコリー	青森 H27	ヨトウムシ	多 (放虫)	4000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
	新潟 H27		中→多		本葉 17～18 葉展開期、生葉数 12～13 枚		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	鳥取 H27		少		生育期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	茨城 R2		中 (放虫)		花蕾形成前		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	奈良 R2		多 (放虫)		出蕾期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	愛媛 R2		少 (放虫)		本葉 4～5 枚、草丈約 20cm		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-16 : フィールドマストフロアブルの薬効・薬害試験（はなやさい類、ハスモンヨトウ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		病害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
ブロッコリー	茨城 H27	ハスモンヨトウ	少 (放虫)	4000 0.005	草丈 70cm 前後、着蕾 始期	散布	無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	薬害は認め られなかった。
	岡山 H27		多→極少 (放虫)		本葉 10 葉展開		無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	薬害は認め られなかった。
	徳島 H27		少		生育初 期、本葉 15 枚程 度		無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	薬害は認め られなかった。
	宮崎 H27		甚		本葉 12 枚程度		無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	薬害は認め られなかった。
	茨城 R2		多→少 (放虫)		本葉 9～ 10 枚期		無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	薬害は認め られなかった。
	和歌山 R2		中 (放虫)		生育期 (本葉 4 枚)		無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	薬害は認め られなかった。

表 1-17 : フィールドマストフロアブルの薬効・薬害試験（はなやさい類、ハイマダラノメイガ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		病害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
ブロッコリー	愛知 H27	ハイマダラノメイガ	少	4000 0.005	生育初期	散布	無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	薬害は認め られなかった。
	徳島 H27		少 (放虫)		生育初 期、本葉 6 葉期		無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	薬害は認め られなかった。
	宮崎 H27		中		本葉 7 枚 展開		無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	薬害は認め られなかった。

⑤ 非結球あぶらな科葉菜類

薬効・薬害試験の結果、アオムシ、コナガ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ及びキスジノミハムシに対して無処理区と比べて効果が認められた。

非結球あぶらな科葉菜類のアオムシ、コナガ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ及びキスジノミハムシに対する効果については、こまつな、みずな及びなばなの試験で評価した。

表 1-18 : フィールドマストフロアブルの薬効・薬害試験（非結球あぶらな科葉菜類、アオムシ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病虫害		試験条件			結果	
		病虫害名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
こまつな	新潟 R1	アオムシ	多 (放虫)	4000 0.005	本葉 4 枚 程度展開	散布	無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	薬害は認め られなかった。
	愛知 R1		中		本葉 9～ 10 枚期		無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	薬害は認め られなかった。
	奈良 R1		多 (放虫)		4～5 葉 期、草丈 10～ 15cm		無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	薬害は認め られなかった。
	鹿児島 R1		中		生育期		無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	薬害は認め られなかった。
みずな	福島 R1		中		生育期		無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	薬害は認め られなかった。
	鹿児島 R1		中		生育期		無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	薬害は認め られなかった。
なばな	三重 R1		多		収穫期 (草丈 50cm 程 度)		無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	薬害は認め られなかった。
	奈良 R1		中 (放虫)		4～5 葉 期、草丈 10～ 15cm		無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	薬害は認め られなかった。

表 1-19 : フィールドマストフロアブルの薬効・薬害試験（非結球あぶらな科葉菜類、コナガ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		病害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
こまつな	福島 R1	コナガ	中 (放虫)	4000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	東京 R1		多 (放虫)		草丈 20cm 程度		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	新潟 R1		多 (放虫)		本葉 4 枚程度展開		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	愛知 R1		多		本葉 12 枚程度、 草丈約 40cm、 収穫期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	奈良 R1		少		本葉 2.5 葉		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	青森 R2		多 (放虫)		生育期 (草丈 10 ~15cm)		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	京都 R2		甚少 (放虫)		8~9 葉期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
みずな	福島 R1	コナガ	中 (放虫)	4000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	鹿児島 R1		中 (放虫)		収穫期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なばな	三重 R1		中		収穫期 (草丈 50cm 程度)		無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	香川 R1		少		草丈 20cm		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-20 : フィールドマストフロアブルの薬効・薬害試験（非結球あぶらな科葉菜類、ヨトウムシ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		病害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
こまつな	岩手 R1	ヨトウムシ	少 (放虫)	4000 0.005	9～10 葉期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	福井 R1		中(放虫)		生育期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	兵庫 R1		中→多 (放虫)		本葉 7～9 枚期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	岡山 R1		多 (放虫)		収穫初期		無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
みずな	福井 R1		中 (放虫)		生育期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	奈良 R2		甚 (放虫)		生育期 (草丈約 35cm)		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	岡山 R2		甚 (放虫)		草丈約 15cm、 株直径約 20cm		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なばな	千葉 R2		少 (放虫)		草丈 40cm、 本葉 10 枚程度		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	奈良 R2		多 (放虫)		生育期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-21 : フィールドマストフロアブルの薬効・薬害試験（非結球あぶらな科葉菜類、ハスモンヨトウ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病虫害		試験条件			結果	
		病虫害名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
こまつな	福井 R1	ハスモンヨトウ	中 (放虫)	4000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	愛知 R1		中 (放虫)		草丈約 30cm		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	奈良 R1		中 (放虫)		4.5 葉期、草丈 18cm		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	岡山 R1		多		本葉 6～7 葉展開		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	鹿児島 R1		中→少 (放虫)		生育期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	沖縄 R1		甚 (放虫)		生育期-収穫期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
みずな	福井 R1		中 (放虫)		生育期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	奈良 R1		中 (放虫)		収穫期直前		無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なばな	三重 R1		中 (放虫)		収穫期 (草丈 35cm 程度)		無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	奈良 R1		甚 (放虫)		本葉 10 葉期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	和歌山 R1		多 (放虫)		本葉約 15 枚、草丈 30cm		無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。

表 1-22 : フィールドマストフロアブルの薬効・薬害試験（非結球あぶらな科葉菜類、キシジノミハムシ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		病害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
こまつな	東京 R1	キシジノミハムシ	中 (放虫)	4000 0.005	本葉 5～8 枚	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	兵庫 R1		中→多		7～9 葉期		無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	奈良 R1		甚		本葉 3～4 葉期		無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
	岡山 R1		多→甚		本葉 4 葉展開		無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	徳島 R1		多		本葉 8～10 枚		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	高知 R1		少 (放虫)		生育期 (草丈約 20cm)		無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
みずな	京都 R1		多→甚		本葉 12～13 枚展開時		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	奈良 R1		甚		本葉 3～4 葉期		無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
なばな	奈良 R1		多		本葉 2～3 葉期		無処理区と比較して効果が認められたが、その程度は低かった。	薬害は認められなかった。
	千葉 R2		少 (放虫)		草丈約 40cm、 本葉 10 枚程度		無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	奈良 R2		多		本葉 6 葉期		無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

⑥ こまつな

薬効・薬害試験の結果、ナモグリバエに対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-23 : フィールドマストフロアブルの薬効・薬害試験（こまつな、ナモグリバエ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病虫害		試験条件			結果	
		病虫害名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
こまつな	青森 R1	ナモグリバエ	中 (放虫)	4000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	岡山 R1	ナモグリバエ	少 (放虫)		本葉 5～6 葉展開		無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	和歌山 R1	ナモグリバエ	多 (放虫)		生育期 (草丈 25cm)		無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	岡山 R2	ナモグリバエ	中		本葉 7 葉展開		無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	青森 R2	ナモグリバエ	中 (放虫)		草丈 10cm		無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	青森 R3	ナモグリバエ	多 (放虫)		草丈 5.5～10.5cm、 本葉 3～4 枚		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

⑦ レタス類

薬効・薬害試験の結果、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ及びナモグリバエに対して無処理区と比べて効果が認められた。

レタス類のハスモンヨトウ、ヨトウムシ及びナモグリバエに対する効果については、レタスの試験で評価した。

表 1-24 : フィールドマストフロアブルの薬効・薬害試験（レタス類、ハスモンヨトウ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		病害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
レタス	山梨 H29	ハスモンヨトウ	中 (放虫)	4000 0.005	本葉 13 ～15 葉	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	長崎 H29		少 (放虫)		結球期		無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	茨城 H30		多 (放虫)		6～8 葉期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	山梨 H30		中→少 (放虫)		本葉 9～ 12 枚		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	香川 H30		中 (放虫)		4～5 葉展開		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	長崎 H30		少 (放虫)		結球期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	宮崎 H30		少 (放虫)		結球開始期、株径 約 20cm		無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-25 : フィールドマストフロアブルの薬効・薬害試験（レタス類、ヨトウムシ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		病害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
レタス	茨城 H29	ヨトウムシ	中 (放虫)	4000 0.005	本葉 7 枚期	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	茨城 H30		中→少 (放虫)		本葉 4 枚		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	長野 R1		少 (放虫)		定植 9 日後、生育初期		無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		病害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
レタス	岡山 R1	ヨウムシ	少 (放虫)	4000 0.005	結球期	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	宮崎 R1		少 (放虫)		結球期		無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	奈良 R2		中→少 (放虫)		本葉 4 枚期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	山梨 R2		中→少 (放虫)		本葉 10～12 葉期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

表 1-26 : フィールドマストフロアブルの薬効・薬害試験（レタス類、ナモグリバエ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		病害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
レタス	青森 H30	ナモグリバエ	甚	4000 0.005	本葉 8～9 枚	散布	無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	岩手 H30		中		本葉 5～6 枚		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	群馬 H30		中		外葉形成期(本葉 7-8 枚展開時)		無処理区と比較して効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	奈良 H30		少		本葉 6 葉期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	岡山 H29		中		結球初期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	青森 R1		少→多		本葉 6～7 枚		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	岩手 R1		少		本葉 3～4 枚		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		病害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
レタス	長野 R1	ナメタリハエ	多	4000 0.005	外葉生育 期(本葉 7 ～9 枚程 度)	散布	無処理区と比較 して効果が認め られた。	薬害は認め られなかった。
	岡山 R1		少		結球初期		無処理区と比較 して効果が認め られたが、その 程度は低かった。	薬害は認め られなかった。

⑦ かぶ

薬効・薬害試験の結果、アオムシ、コナガ、ヨトウムシ、キスジノミハムシ、ハイマダラノメイガ及びカブラハバチに対して無処理区と比べて効果が認められた。

表 1-27 : フィールドマストフロアブルの薬効・薬害試験（かぶ、アオムシ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		病害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
かぶ	愛知 R2	アオムシ	中	4000 0.005	展開期 (本葉6～ 8枚)	散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	薬害は認め られなかった。
	奈良 R2		多 (放虫)		本葉6～7 枚		無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	薬害は認め られなかった。

表 1-28 : フィールドマストフロアブルの薬効・薬害試験（かぶ、コナガ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		病害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
かぶ	愛知 R2	コナガ	少 (放虫)	4000 0.005	展開期 (本葉6～ 8枚)	散布	無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	薬害は認め られなかった。
	奈良 R2		少 (放虫)		本葉6枚 期		無処理区と比較 して十分な効果 が認められた。	薬害は認め られなかった。

表 1-29 : フィールドマストフロアブルの薬効・薬害試験（かぶ、ヨトウムシ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		病害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
かぶ	石川 R2	ヨトウムシ	中 (放虫)	4000 0.005	生育期	散布	無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	薬害は認め られなかった。
	奈良 R2		甚 (放虫)		生育期 草丈約 30cm		無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	薬害は認め られなかった。

表 1-30 : フィールドマストフロアブルの薬効・薬害試験（かぶ、キスジノミハムシ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		病害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
かぶ	長野 R2	キスジノミハムシ	甚	4000 0.005	は種 14、21 日後	散布	無処理区と比較 して効果が認め られた。	薬害は認め られなかった。
	奈良 R2		甚		本葉 3～ 7 枚		無処理区と比較 して効果が認め られたが、その 程度は低かった。	薬害は認め られなかった。

表 1-31 : フィールドマストフロアブルの薬効・薬害試験（かぶ、ハイマダラノメイガ）結果概要

作物名	実施場所 実施年度	対象病害虫		試験条件			結果	
		病害虫名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用 時期	使用 方法	薬効	薬害
かぶ	愛知 R2	ハイマダラノメイガ	多	4000 0.005	展開期 (本葉 6 ～7 枚)	散布	無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	薬害は認め られなかった。
	兵庫 R2		多→甚		展開期 (本葉 6 枚)		無処理区と比較 して十分な効果が 認められた。	薬害は認め られなかった。

表 1-32 : フィールドマストフロアブルの薬効・薬害試験（かぶ、カブラハバチ）結果概要

作物名	実施場所	対象病虫害		試験条件			結果	
	実施年度	病虫害名	発生量	希釈倍数 (倍) 使用濃度 (kg ai/hL)	使用時期	使用方法	薬効	薬害
かぶ	福井 R2	カブラハバチ	中	4000 0.005	根部肥大始	散布	無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。
	山梨 R2		少		5～6 葉期		無処理区と比較して十分な効果が認められた。	薬害は認められなかった。

(3) 薬害

① 対象作物

表 1-1 から表 1-32 に示した薬効・薬害試験の結果、薬害は認められなかった。

② 対象作物以外の作物

なす、ほうれんそう、稲、きゅうり及びだいずを用いた薬害試験の結果、実用上問題となる薬害は認められなかった。

表 1-33 : フィールドマストフロアブル用いた薬害試験結果概要

作物名	試験場所 実施年度	試験条件				結果
		希釈倍数 (倍)	処理濃度 (kg ai/hL)	処理時期	使用方法	
なす	神奈川県 H30	4000	0.005	8～9 葉期	散布	薬害は認められなかった。
ほうれんそう	神奈川県 H30	4000	0.005	4～6 葉期	散布	薬害は認められなかった。
稲	神奈川県 H30	4000	0.005	2.5 葉期	散布	一部の株で処理 7 日後にわずかに葉先の黄化が認められたが軽微であり、回復した。
きゅうり	神奈川県 H30	4000	0.005	2～3 葉期	散布	薬害は認められなかった。
だいず	神奈川県 H31	4000	0.005	2～3 複葉期	散布	薬害は認められなかった。